



シリーズ「元気が一番！」

「ざんねないきもの」から学ぶ

校長 笠井 猛雄

■ざんねないきもの(その1)「ナマケモノ」

二学期の始業式。

右下の写真を見せると、子どもたちはすぐに「ナマケモノ」だと分かりました。

そこで、次のように尋ねました。

「どうしてナマケモノという名前がついたか分かりますか？」

「なまけものだから…」という答えがすぐに返ってきました。

ナマケモノは、身長がだいたい60cmくらい、体重が5kgから9kgくらいです。動く速さは時速16mで、1分間に27cmくらいしか動けません。

ナマケモノは、ほとんど動かず、天敵から身を守るために木の上で生活をしています。1日20時間くらい、1日のほとんどは、木の上で眠っています。週に1回、うんこをするためだけに地上に下りるそうです。

ただ、このような生態は、ナマケモノらしい理にかなった生き方なのでしょう。

子どもたちに次の話をしました。



ナマケモノはとても「怠け者」なので、ナマケモノという名前がついたのですね。ナマケモノは動物です。人間は「怠け者」になってはいけません。

皆さんも、自分一人くらい、面倒くさいなどという理由で楽をしてはいけません。やればできる「当たり前のこと」をきちんとやると、どんどん「やる気」が湧いてきて、ますます「元気」になります。お勉強もできるようになります。

「挨拶」「返事」「姿勢」、やればできる「当たり前」のことをきちんとやって、全校のみんなで「元気が出る学校」をつくっていきましょう。

■ざんねないきもの(その2)「うさぎ」

今泉忠明監修『ざんねないきもの辞典』(高橋書店)によると、うさぎは「自分のうんこを肛門から直に食べる」と紹介されています。それは、人間から見ると「ざんねん」に見えるかもしれませんが、増殖したバクテリアを糞から摂取して、たんぱく質の栄養源とするためです。ナマケモノ同様、うさぎが進化の過程で身に付けた生きる知恵です。

ところで、うさぎにはもうひとつ「ざんねん」なことがあります。

9月の全校朝会では、イソップ童話「うさぎとかめ」を題材にして、次の話をしました。

かめは、しっかりとゴールを見ていました。それに対して、うさぎは、絶対に勝てると思って油断をしました。

かめは、「絶対にゴールする」「絶対に負けない」という「めあて」をもって、最後まであきらめずに、進み続けたので、うさぎに勝つことができたのです。

みなさんの二学期のめあてははっきりしていますか？

自分のめあてを達成するためには、まず、「続けること」が大切です。1回や2回くらいやっただけで、できることはありません。それを続けることが大切です。

次に、「あきらめない」ことです。自分で決めた「めあて」です。自分で決めたことに責任をもって、最後まであきらめずに、ゴールめざしてがんばってほしいと思います。



●二学期も、凡事徹底、「当たり前なこと」を「当たり前」にできる力を子どもたちに身に付けさせる指導を大切に、元気が出る学校づくりを目指します。変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。